

ヒューマンメディア財団

HU-DIA

vol. **18**
Jun.2009



表紙の作品は、第3回北九州デジタルクリエイターコンテスト平面部門大賞作品「赤いフクロウ」(浅野 舜葵 あさのみつきさん作)です。

2009年度 主要事業のご紹介

2008年度 主な活動実績

ヒューマンメディア財団のご紹介

主要事業のご紹介

2009年度は、「ICTの地域課題への適用」、「e-PORTを基盤とする産業振興」、「情報産業の高度人材育成と新分野への進出支援」の3点に重点的に取り組んでまいります。

ICTの地域課題への適用

少子高齢化の進展や中心市街地の衰退など、地域の具体的な課題を解決するためのICTプロジェクトを加速します。

FNET(福岡看護eラーニング研究会)事業

医療の高度化・多様化が進む現在において、看護師は地域医療を支える重要な役割を担っています。しかし、学校で習得した知識と医療現場で必要とされる知識とのギャップが大きく、また、業種柄、一堂に会した研修・教育が困難であることから、結果として離職率が高まり、地域医療現場の大きな課題となっています。こうした課題の解決策として、近年注目を浴びているeラーニングは効果が高いと言われていますが、導入に伴う労力やコストが多額であることもあって、中小の病院では導入に踏み切れない傾向にあります。

そのためヒューマンメディア財団では、先進的にeラーニングに取り組み、ノウハウを有する県内の病院や大学等を中心にFNET(福岡看護eラーニング研究会)を立ち上げ、地域の医療機関が共同で利用できる安価で使い勝手の良いeラーニングシステムとコンテンツの開発・運営を目指し、活動を行ってきました。

平成21年度は、これまでの活動成果を基に、このeラーニングシステムを本稼働に移し、サービスを開始します。

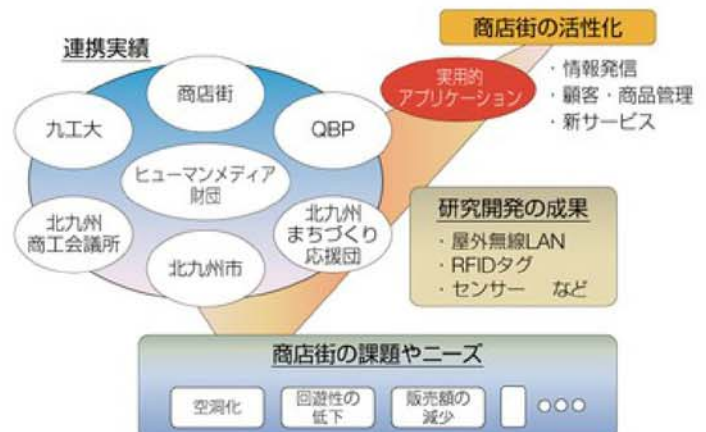
eラーニングサービスの開始に当たっては、システム開発、コンテンツ制作、研究会の運営等すべての業務を地元企業と協働して行い、地域課題の解決に向けた「made in 北九州」のアプリケーションを北九州e-PORTから発信し、全国展開を目指します。



商店街活性化プロジェクトの推進

多くの商店街では、回遊性の低下、販売額の減少など、様々な課題を抱えています。ICTを上手に活用すれば、こうした課題を解決できるのではないか、そんな思いから、財団では、平成18年度より、商店街で様々なICT実証実験を進めてきました。これまでの実験では、無線LANやセンサーを活用して、商店街にきた人が、周辺にある店舗の情報、クーポンを簡単に確認できる仕組みや、様々な販促情報を、店舗から、コンピューターを意識しない操作で、リアルタイムに発信できる仕組みなどを実験してきました。その他にも、顧客管理や事務集中化など、様々な仕組みが考えられます。

そこで平成21年度は、商店街関係者と研究会を立ち上げ、商店街の活性化に効果的なICTを活用した仕組みを検討するとともに、その事業化を図る商店街活性化プロジェクトに取り組み、実用的なサービスの創出を目指します。



e-PORTを基盤とする産業振興

新事業創出のための支援プロジェクトを立ち上げるとともに、e-PORTのブランド力の向上を図るため、プロモーションやe-PORT推進協議会の運営を行います。

次世代e-PORTの検討

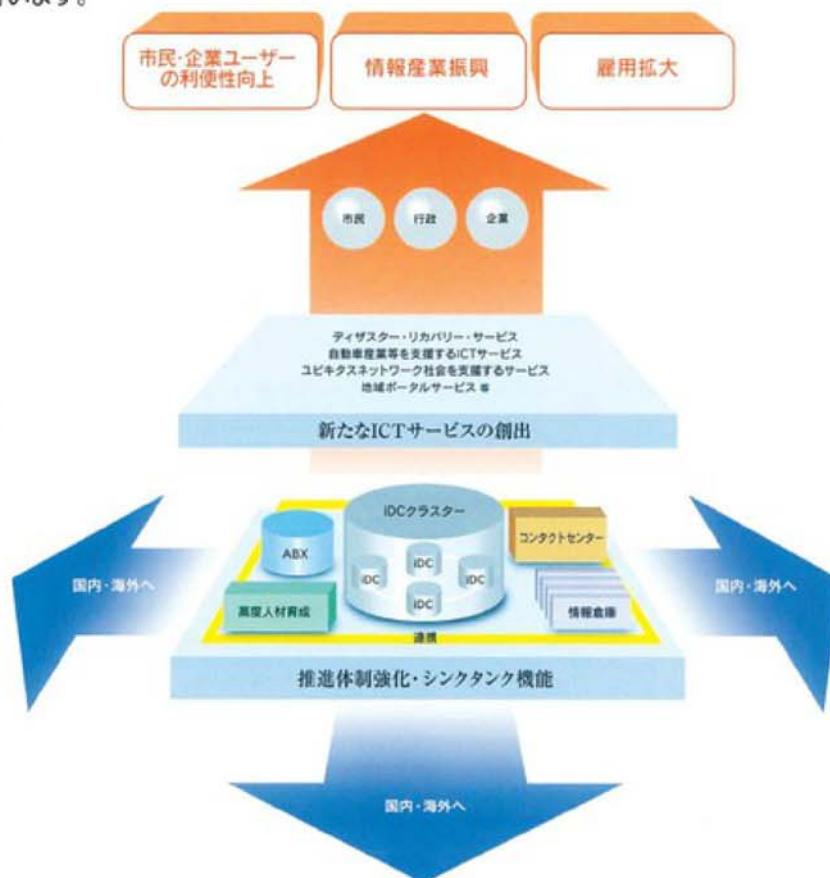
クラウドコンピューティングやSaaSの普及、グリーンITへの関心、他地域の動向などを踏まえ、中長期の地域情報通信戦略を検討します。次世代のプラットフォームとサービスを具体的に描きロードマップを策定します。

e-PORTセミナー

一般企業を対象に北九州市内にて開催します。このセミナーでは、情報セキュリティ、グリーンIT、コスト削減など一般企業の関心が高いテーマを切り口にデータセンターへのアウトソーシングのメリットや具体的な取組み事例についてご紹介します。

新規事業創出プロジェクト

e-PORT基盤を活用した斬新かつ有望な新サービス開発に取り組む企業にサーバーインキュベーター(データセンターの廉価提供)やプロモーション支援等を行います。



▶▶▶ クラウドコンピューティングとは

インターネットの先にあるサーバーが処理をするコンピュータ利用形態のこと。ユーザーはサーバーの場所を意識する必要がない。クラウド(雲)はインターネットを例えた表現。

▶▶▶ SaaSとは

Software as a Serviceの略。ソフトウェアをネットワーク経由のサービスとして提供・販売する形態のこと。

▶▶▶ グリーンITとは

地球環境保護に配慮した情報通信技術のこと。IT機器の省電力化やリサイクル性向上など「ITそのもののエコ」とITを利用して生産や物流を最適化する「IT活用によるエコ」がある。

情報産業の高度人材育成と新分野への進出支援

地域の情報サービス産業が競争力を高め、新分野への進出を支援するため、組込みセミナーをはじめとする人材育成プログラムの充実・高度化を図ります。

組込みセミナーの開催

北九州地域の情報サービス企業が、需要の拡大が見込まれている組込みソフトウェア分野に進出するための支援を行います。ビジネス系アプリケーション開発から組込みソフトウェア開発へ、ソフトウェア技術者の転換がスムーズに行えるよう、約1か月間のセミナー開催に加え、先進企業でのOJTを組み合わせた実践的研修プログラムを実施します。このセミナーでは上級者の監督の下で開発作業ができる「組込み技術者資格(ETECクラス2)」の取得を目指します。

地域プロデューサー養成講座

北九州市民による北九州市のための地域戦略をプロデュースしてゆく人材を育てることを目的に、地域に根ざしたブランディングと情報戦略を学ぶ、地域プロデューサー養成連続講座「モノ・コトを起す」を、平成20年度も引き続き開催しました。

平成21年度には、これまでの成果をさらに発展させ、本事業の第三フェーズとして、地域デザイン、コミュニケーションデザインを学び、受講生がそれぞれの立場で北九州市の地域資源をプロデュースし、情報発信する方法を実践的に学ぶことを目標としています。



主な活動実績

2008年度は、「市民の身近にあるアプリケーションの創出」、「ユビキタス社会の実現を推進」、「地域情報産業発展のための人材育成」に取り組みました。

市民の身近にあるアプリケーションの創出

データセンター活用セミナーの開催

8月27日ステーションホテル小倉にて「データセンター活用セミナー～戦略的ITアウトソーシングのすすめ～」を開催しました。

仮想化技術の進化やネットワーク環境の充実により、クラウドコンピューティングに注目が集まっています。企業の情報システムは、「所有する時代から利用する時代へ」移行しつつあります。このセミナーでは、企業の経営者・情報システム部門責任者・危機管理部門責任者をはじめとした120名の皆様に、ITアウトソーシングが、TCO極小化、機会損失低減、コンプライアンス対策、CO₂削減などにどのように役立つか具体例を交えてご紹介しました。



セミナーの様子

e-PORT発! 新サービスの創出

北九州のIT企業を対象に新サービス創出支援を行っています。

7月8日当財団ビルマルチメディアホールにて開催したセミナー「データセンターを活用した新規事業の創出」では、ITアウトソーシングやSaaSの市場拡大を踏まえ、IT企業が新サービスを創出する際にデータセンターをどのように活用すればよいか、データセンター事業者が提供する様々なサポートメニューを具体的に挙げてご紹介しました。また、地域ポータルサービスにおいては地元企業と共同で「子育てポータルサービス」の実証実験を実施しました。この他、研究開発支援など様々なサポートを行っています。



子育てポータルサービスの実証実験

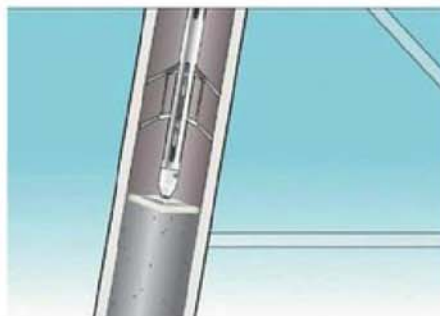
映像コンテンツビジネス創出事業

近年、インターネットや携帯電話への配信によるデジタルコンテンツ流通が活発化し、利用者増により市場規模は拡大を続けています。こうした中、北九州地域におけるコンテンツの流通の活発化支援を行いました。

具体的にはFLASHを使用したコンテンツを中心として、プレゼンテーションやeラーニングに活用できる映像コンテンツの制作体制の構築と顧客の開拓を目指すプロジェクトを実施。商業系、工業系、教育系、それぞれの分野でのコンテンツ制作や次年度へつなぐ活動を行いました。



商業系コンテンツの例



工業系コンテンツの例



教育系コンテンツの例

地域情報産業発展のための人材育成

北九州デジタルクリエイターコンテスト

デジタルコンテンツのクリエイターを発掘・育成・支援することを目的に、第3回北九州デジタルクリエイターコンテスト(KDCC)を実施しました。審査は北九州市出身の画家・イラストレーターの牧野伊三夫さんほか、国内の第一線で活躍の森本千絵さんなど6名のクリエイターにより行いました。第3回のテーマは「到津の森公園」。応募総数1,230点の中から公開審査で各賞が選ばれました。平面部門の大賞作品は、「到津の森公園」の平成21年度宣伝素材として活用しています。

北九州版ITSS(KTSS)の策定

経済産業省は、IT関連サービス分野における職種と、必要とされる技能(スキル)を明確にし、ITサービスのプロフェッショナルを育成・活用する際に共通に使える「ものさし」として、「ITスキル標準(ITSS)」を策定しています。

当財団においても、これまでIT大学校やKIPスクールなどの高度人材育成事業として各種研修・講座を実施してきましたが、中長期的な観点で人材育成プログラムが必要との認識から、ITSSを参考としながら、北九州地域での企業ニーズや企業の特徴、今後の方向性等を加味した北九州版ITSS(KTSS)を作成しました。

今後、このKTSSに沿って体系化した研修プログラムを企画・実施していきたいと考えています。



大賞作品を活用して作成した
到津の森公園のポスター

ユビキタス社会の実現を推進

ICT研究開発事業の推進

商店街が抱える様々な課題の解決策を探るため、ICTを活用した活性化実証実験を行いました。実験では、商店街内に、屋外でも高速な通信が期待できる5GHz帯の無線LANを構築するとともに、センサーを活用して、店頭に置いた10cm四方の箱の向きを変えするという、コンピューターを意識することのない簡単な操作で、「空席あります」「新茶無料試飲サービス中」などの販促情報をウェブ上にリアルタイムで発信する仕組み等を検証しました。



店頭に置いた情報発信端末

その結果、ネットワークは安定的に18Mbps程度の伝送速度を実現し、販促情報のリアルタイム発信も、商店街関係者やデモ参加者から高い評価をいただきました。

また、実験の企画、運営には、九州工業大学大学院の学生を中心に16名が参加。実践を通じて、プロジェクト遂行力の習得を図るなど、今後のICT産業を支える人材の育成にも取り組みました。



販促情報をリアルタイムで表示するウェブ画面

ヒューマンメディア財団のご紹介

当財団は、平成8年4月の設立以来、地域経済社会の発展に資するため、北九州地域を中心としたICT産業の振興に取り組み、様々な施策を実施してきました。

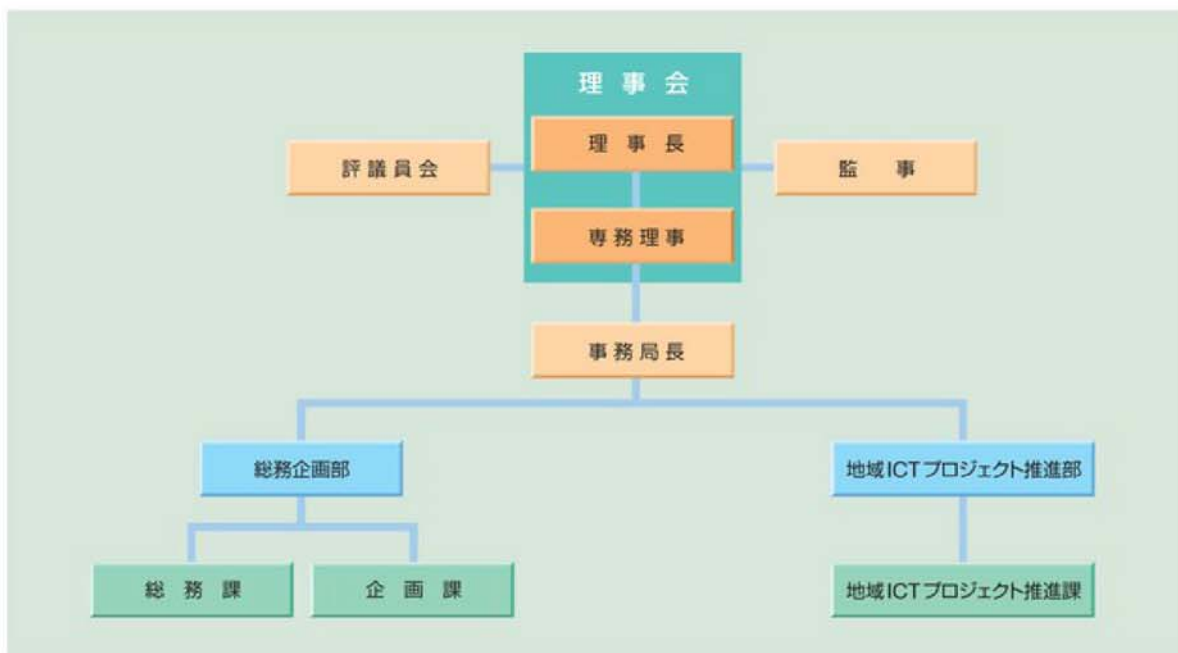
近年、インターネットの急速な普及やブロードバンド化、携帯電話をはじめとするモバイル化など、ICTの高度化が目覚ましいスピードで進んでいます。こうした高度情報化社会や知識創造型社会の進展に対応した新たな戦略を構築するため、当財団は組織の再編を行うとともに、これまでの活動の成果を踏まえて、事業の絞込みを進めています。

平成21年度は、

- I e-PORTを基盤とする産業振興
- II ICTの地域課題への適用
- III 情報産業の高度人材育成と新分野への進出支援

の3点を重点指向とする方針を定め、この方針に基づき、少子高齢化の進展や中心市街地の衰退など、地域の具体的な課題にICTを活用して解決を図る取り組みを行っています。また、そのための人材育成や企業支援を実施するなど、北九州地域における中核推進機関として、地域経済の発展と豊かな市民生活の実現に向けて積極的に取り組んでいます。

財団法人 九州ヒューマンメディア創造センター 組織図



地域の関連団体のご紹介

KIP(北九州情報サービス産業振興協会)

KIPは、北九州地域の情報サービス産業における諸問題に対応し、業界が一体となった取組みを進めるために平成元年5月に設立されました。これまで、人材育成事業、交流事業、広報事業、調査活動の4つの事業を中心に活動を展開し、地域の情報サービス産業の振興と発展に寄与してきました。

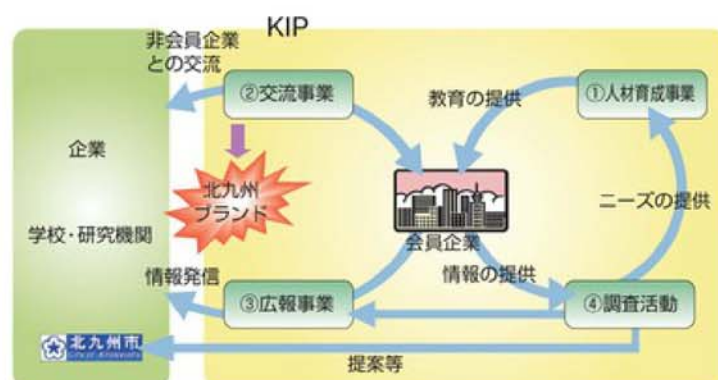
今年は設立20周年を迎え、去る5月19日には設立20周年記念講演会・交流会を開催し、行政・地域のICT企業をはじめ

として、大勢の皆様にご参加いただきました。

これまでの20年以上に、今後の社会は急激な変化が予想されています。こうした時代の変化やニーズに対応するため、今後も産学官の連携を強めるとともに、次世代を担う人材の育成に力を注ぎ、この20周年を契機として、更なる飛躍を目指してまいります。

KIP主要4事業

- ①人材育成 ②交流事業 ③広報事業 ④調査活動



KIP設立20周年記念講演会

Topics

九州インターネットプロジェクト(QBP)

九州には、大学や企業を中心に、ネットワーク関係の研究者や技術者が多数活躍しています。QBPは、こうした研究者等の情報交換ならびに自由な議論の場として、平成12年に発足したもので、現在は、これからのネットワーク社会を支える新しい技術の開発を促進するとともに、ICTビジネスの創出・発展、人材育成に寄与すべく、シンポジウムや研究交流会のほか、大学のPBLカリキュラムと連携した人材育成等に取り組んでいます。

今後、動画等の普及により、ネットワークの一層の利用が期待されます。

QBPでは、このビジネスチャンスを生かすべく、ICT関連企業との連携を図り、ここ九州の地で、新たな技術開発やサービス創出に取り組む企業の活動を支援します。

QBPの概要

- 目的** 産学官の連携を通じて、ネットワーク関連技術の発展や地域における高度情報化を促進する。
- 会長** 尾家 祐二
(九州工業大学情報工学研究院長)
- 構成** ICT関係企業、大学研究者
- 活動内容** ・ネットワーク分野の先端技術に関する情報の集積及び発信
・ネットワークを利用した実証実験



ワークショップ(研究交流会)の様子

Members (五十音順)

役員(15名) (2009年6月23日現在)

理事長	高橋 孝司
専務理事	寺尾 勇
理事	片山 憲一 北九州市産業経済局長
	重洲 雅敏 北九州商工会議所会頭
	下村 輝夫 九州工業大学学長
	高橋 靖周 東九州輪推進機構副会長
	利島 康司 株式会社安川電機取締役社長
	原田 康 株式会社ゼンリン代表取締役会長
	増田 毅 西日本電信電話株式会社北九州支店長
	松尾 新吾 社団法人九州経済連合会会長
	眞部 利應 九州電力株式会社代表取締役社長
	明賀 孝仁 新日本製鐵株式会社執行役員八幡製鐵所長
	矢田 俊文 北九州市立大学学長
監事	加藤 憲治 北九州市会計室長
	丸尾 俊文 日本テレコムインフォメーションサービス株式会社 代表取締役社長

評議員(15名) (2009年6月23日現在)

伊藤 健二 TOTO株式会社代表取締役副社長執行役員
尾家 祐二 九州工業大学情報工学研究院長
尾野 徹 財団法人ハイパーネットワーク社会研究所顧問
久保田勇夫 株式会社西日本シティ銀行取締役頭取
諏訪 邦彦 北九州情報サービス産業振興協会会長
斎藤 宏昭 福岡県工業技術センター所長
下川 徹 株式会社高田工業所取締役
谷 正明 株式会社福岡銀行取締役頭取
谷村 秀彦 財団法人国際東アジア研究センター所長
塚本 寛 北九州工業高等専門学校校長
中野 文治 財団法人北九州活性化協議会常務理事
東 敏昭 産業医科大学産業生態科学研究所所長
藤原 直捷 財団法人北九州国際技術協力協会常務理事兼事務局長
松家 繁 福岡県商工部長
米田 健三 大分県商工労働部長

賛助会員(35団体) (2009年6月23日現在)

株式会社アイティーエム
株式会社アクシス
株式会社井筒屋
株式会社エリアサービス
開発電子技術株式会社 九州支店
北九州商工会議所
株式会社ザイジデン
新日鉄ソリューションズ株式会社 西日本支社
新日本製鐵株式会社 八幡製鐵所
学校法人昴学園総合専門学校
株式会社スピナ
セイコーエプソン株式会社 北九州オフィス
株式会社ゼンリン
株式会社ゼンリンデータコム ソリューション事業部
ソニーブロードバンドソリューション株式会社
ソフトバンクテレコム株式会社
株式会社ソルネット
DIRシステムテクノロジー株式会社
データキューブ株式会社
TOTO株式会社
西日本コンピュータ株式会社
株式会社西日本シティ銀行 北九州地区本部
日本コンピューター株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本電気株式会社 北九州支店
株式会社ビーフロント
ビス・コレジオ株式会社
株式会社日立製作所 北九州支店
日立電子サービス株式会社 北九州営業所
富士通株式会社 九州支社
安川オピナス株式会社
安川情報システム株式会社
株式会社山口銀行 北九州本部
株式会社リンク
株式会社ワンビシアーカイブズ 九州支店

アクセス

ヒューマンメディア財団

(財団法人九州ヒューマンメディア創造センター)

URL <http://www.human-media.or.jp/>

<総務企画部/総務課・企画課>

〒805-0071 北九州市八幡東区東田1丁目5番7号
TEL 093-663-2950 FAX 093-663-2955

<地域ICTプロジェクト推進課(EMサイト)>

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号 AIMビル7F
TEL 093-512-8007 FAX 093-511-0801

<地域ICTプロジェクト推進課(ITオープンラボ)>

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号 AIMビル7F
TEL 093-551-7540 FAX 093-551-7541

■JRの場合-JR八幡駅から徒歩5分

